

コミュニケーション能力を育てる英語科学習指導の在り方
 ～小・中・高の接続を踏まえた指導過程やタスク（課題）活動の工夫を通して～

目 次

I 研究の概要

1	研究主題	2	1
2	主題設定の理由	2	1
3	研究の目的	2	2
4	研究の仮説	2	2
5	研究の構想	2	2
6	研究経過	2	3

II 研究の実際

1	研究についての基本的な考え方	2	3
2	英語学習に関する生徒の実態調査と研究の方向	2	5
3	小・中・高の接続を踏まえた指導内容や指導方法の工夫	2	7
4	自分の思いや考えを伝え合うタスク活動	2	7
5	コミュニケーションを持続させるための手立ての工夫	2	10
6	英語学習に対する興味・関心や意欲を高める教材・教具の工夫	2	10
7	検証授業の実際		
	(1) 検証授業Ⅰ（中学校第3学年）	2	10
	Sunshine English Course 3（Program 3 Don't Ask Me That Question!）		
	(2) 検証授業Ⅱ（中学校第3学年）	2	14
	Sunshine English Course 3（Program 5 Working as a Volunteer）		
8	研究の仮説の検証及び考察	2	18

III 研究の成果と今後の課題

1	成果	2	19
2	課題	2	19
	〈引用文献・参考文献〉	2	20

研究実践学校 宮崎市立宮崎中学校
 研 究 員 永 野 一 美

I 研究の概要

1 研究主題

コミュニケーション能力を育てる英語科学習指導の在り方
～小・中・高の接続を踏まえた指導過程やタスク（課題）活動の工夫を通して～

2 主題設定の理由

21世紀を迎え、世界の経済・社会は急速に国際化・グローバル化している。それに伴い、異なる文化の人々との共存や国際協力の必要性が増大してきている。そのため、国際共通語である英語の重要性が日本でも今まで以上に高まってきている。

このような中、平成20年3月に新学習指導要領が告示され、外国語活動が小学校高学年で必修となった。中学校外国語科の目標では、小学校段階での外国語活動を通じて、音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ、「聞くこと」「話すこと」だけを重視せず、「読むこと」「書くこと」を含めた「4技能の総合的な育成」を目指すことが重要視されている。さらに、高等学校の学習指導要領では、中学校との円滑な接続を行うために、「コミュニケーション英語基礎」が新たに設けられている。このように、今回の学習指導要領では、「小・中・高を通してコミュニケーション能力を育成すること」を重視した内容となっており、中学校での指導においては、小学校、高等学校との接続を踏まえた指導の充実が求められている。

また、今回の学習指導要領の改訂では、教育の情報化に関わる内容についても一層の充実が図られ、中学校外国語科の「3 指導計画の作成と内容の取扱い」においても「コンピュータや情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用」することが明記されている。

研究実践学校では、平成22年度から校区内の3つの小学校と連携した学力向上について研究に取り組んでいる。しかし、校種間における共通実践ができておらず、小・中学校の連携が十分だとは言えない現状である。一方、生徒の学力の実態は、諸学力検査の結果分析から、領域別では「話すこと」「書くこと」に課題がある。今までの自分自身の指導を振り返ってみると以下のような点に課題がある。

- 指導内容や指導方法等において小・中・高の接続を十分に意識していなかった。
- 「話すこと」「書くこと」の力を高めるための言語活動が、単元や一単位時間の指導の中に計画的に位置付けられていなかった。
- 言語活動が新しい知識の習得に偏りすぎ、既習事項が十分に定着しなかった。
- 自分の思いや考えを分かりやすく表現したり、コミュニケーションを長く持続させたりするための手立てが十分でなく、単発的な言語活動になっていた。

そこで、これらの実態や課題を受けて、小・中・高の接続を踏まえた指導過程を工夫したり、ICT機器を用いた指導過程を工夫したりすれば、生徒の英語学習に対する興味・関心や意欲が高まり、主体的にコミュニケーション活動が図られるものとする。また、自分の思いや考えを伝え合うタスク活動やコミュニケーションを持続させるための手立てを指導過程の中に位置付ければ、生徒は、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを体験的に学び、研究実践学校の課題である「話すこと」「書くこと」におけるコミュニケーション能力の基礎を育むことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

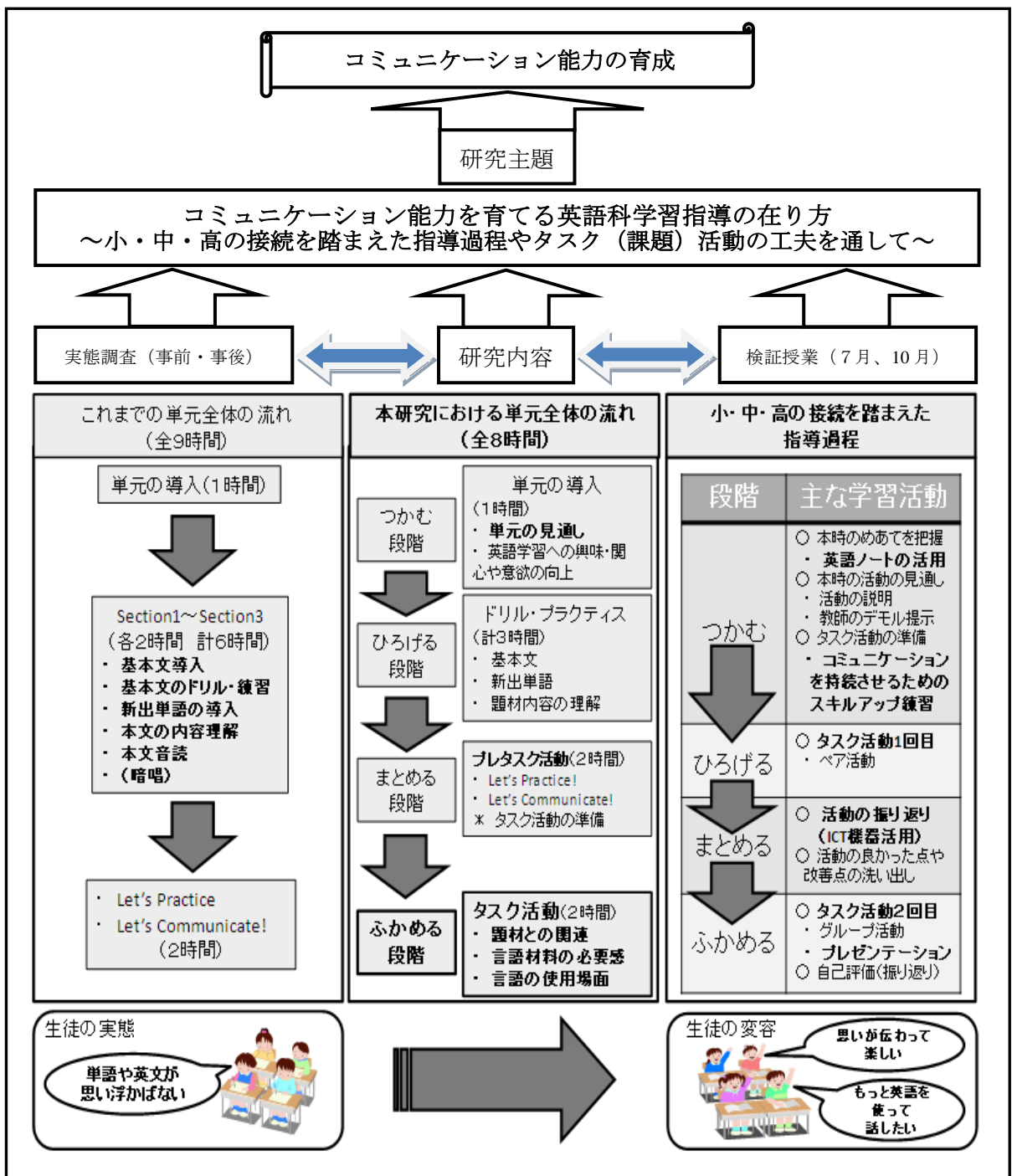
3 研究の目的

小・中・高の接続を踏まえた指導過程やタスク活動の工夫が、生徒のコミュニケーション能力を高めるのに有効であるかどうかを検証する。

4 研究の仮説

- ① 小・中・高の接続を踏まえた指導内容や指導方法の工夫を行えば、生徒はコミュニケーションに対する関心・意欲・態度が高まり、言語活動に積極的に取り組むであろう。
- ② タスク活動を取り入れた指導過程の工夫を行い、自分の思いや考えを伝え合う言語活動を設定すれば、生徒はコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを体感し、コミュニケーション能力における「話すこと」「書くこと」の能力が向上するだろう。

5 研究の構想



6 研究経過

月	研究内容	備考
4	文献研究、研究主題・副題の決定、理論研究、研究計画の立案、実態調査アンケート作成	
5	文献研究、研究の目的・研究仮説・研究の全体構想の作成、理論研究、研究の概要決定、実態調査アンケート作成	
6	実態調査アンケートの実施・分析、検証授業Ⅰの指導案作成	
7	検証授業Ⅰの実施、検証授業Ⅰの検証、中間発表の準備	7月12日実施
8	理論研究、検証授業Ⅱの準備、中間発表の準備、中間発表	8月25日実施
9	検証授業Ⅱの指導案作成、検証授業Ⅱの教材作成	
10	検証授業Ⅱの実施、検証授業Ⅱの検証、研究のまとめ	10月18日実施
11	研究のまとめ、研究状況説明会資料作成、研究状況説明会	11月10日実施
12	研究のまとめ、研究報告書資料作成	
1	研究のまとめ、研究報告書資料作成	
2	研究報告書資料作成、研究発表の準備	
3	研究発表の準備、研究発表	

II 研究の実際

1 研究についての基本的な考え方

(1) 「コミュニケーション能力」について

新学習指導要領の外国語科の目標においては、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、『聞くこと』『話すこと』『読むこと』『書くこと』等のコミュニケーション能力の基礎を養う」こととされている。つまり、単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を身に付けさせるだけでなく、実際に英語を用いたコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力の基礎を養うこととしている。そこで、本研究では、研究実践学校の課題等も踏まえて「話すこと」「書くこと」の領域におけるコミュニケーション能力を育成することとした。そして、中学校第3学年の段階で育む「話すこと」「書くこと」におけるコミュニケーション能力を次のように設定した。

【本研究におけるコミュニケーション能力】

① 「話すこと」におけるコミュニケーション能力

- 自分の言いたいことが伝わるように、既習事項や新出表現を用いて自分の思いや考えを積極的に伝えることができる。
- YesやNoの最小限の応答だけでなく、相づちをうったり聞き返したりしながら、できるだけ対話を続けることができる。

② 「書くこと」におけるコミュニケーション能力

- 自分の思いや考えが正しく伝わる表現なのかを考えたり、読み手の気持ちを意識したりして、分かりやすくまとまりのある文章を書くことができる。

また、コミュニケーション能力の各学年の到達段階や言語の使用場面、言語の働き、言語活動の系統を資料①のように設定した。

【資料① コミュニケーション能力の各学年の到達段階及び主な言語活動の系統】

	コミュニケーションハの関心・意欲・態度	表現の能力 (話すこと) (書くこと)	理解の能力 (聞くこと) (読むこと)	言語や文化への知識・理解 (言語) (文化)	言語の使用場面	言語の働き	接続できる 主な言語活動	
高等学校 第1学年 コミュニケーション 指導基礎	・自分の思いや考え、事象等を相手に分かりやすく表現し、積極的に伝えるようにする。 ・相手の立場に立って、コミュニケーションを図ろうとし、相づちや聞き返しを適切に活用できるようにする。	・聞いたり、読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを適切に伝え、相手との意見の交換を図ることができる。	・事柄に関する紹介や説明などを読み、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。	・説明や内容を讀んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手が行っているように手紙を書くことができる。	・日本語と英語の違い(音・発音・意味・語彙)を理解し、コミュニケーションの中で、自分の思いや考えを相手に正確に伝えることができる。	・英語の習得による文化の理解と日本文化の理解とを比較し、日本の文化の良さについて、外国の人の説明で伝えることができる。	・買い物・旅行・食事・電話での応答・手紙や電子メールのやりとり ・家庭での生活・学校での学習や授業・地域での行事・娯楽での活動 ・本、新聞、雑誌などをよむこと ・テレビや映画などを観ること ・情報通信ネットワークを積極的に活用すること	・コミュニケーションを円滑にする。 ・情報を与える。 ・考えや意見を伝える。 ・相手の行動をたずねる。 英語スピーチ プレゼンテーション ニュース発表 英語の授業 ポスター・アクト・パフォーマンス
中学校 第3学年	・自分の考えや気持ちを表現し、相手と意見を交わすことができるようにする。 ・相手の立場に立って、コミュニケーションを図ろうとし、相づちや聞き返しを適切に活用できるようにする。	・自分の思いや考えが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。 ・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・読んだ内容について、自分の考えや思いをもちながら読むことができる。	・日本語と英語の違い(音・発音・意味・語彙)を理解し、相手に伝える表現が分かる。コミュニケーションの中で自分の考えや思いを正しく伝えることができる。	・買い物・旅行・食事・電話での応答・手紙や電子メールのやりとり ・家庭での生活・学校での学習や授業・地域での行事	・コミュニケーションを円滑にする。 ・情報を与える。 ・考えや意見を伝える。 ・相手の行動をたずねる。	
中学校 第2学年	・与えられた場面や状況で自分の考えや気持ちを表現し、相手と意見を交わすことができるようにする。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・日本語と英語の違い(音・発音・意味・語彙)を理解し、相手に伝える表現が分かる。コミュニケーションの中で自分の考えや思いを正しく伝えることができる。	・買い物・旅行・食事・電話での応答・手紙や電子メールのやりとり ・家庭での生活・学校での学習や授業・地域での行事	・コミュニケーションを円滑にする。 ・情報を与える。 ・考えや意見を伝える。 ・相手の行動をたずねる。	
中学校 第1学年	・与えられた場面や状況で自分の考えや気持ちを表現し、相手と意見を交わすことができるようにする。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・日本語と英語の違い(音・発音・意味・語彙)を理解し、相手に伝える表現が分かる。コミュニケーションの中で自分の考えや思いを正しく伝えることができる。	・買い物・旅行・食事・電話での応答・手紙や電子メールのやりとり ・家庭での生活・学校での学習や授業・地域での行事	・コミュニケーションを円滑にする。 ・情報を与える。 ・考えや意見を伝える。 ・相手の行動をたずねる。	
小学校 第5・6学年	・与えられた場面や状況で自分の考えや気持ちを表現し、相手と意見を交わすことができるようにする。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・自分の考えや思いが正しく伝わるように、既習事項や自分の考えを積極的に伝えることができる。	・日本語と英語の違い(音・発音・意味・語彙)を理解し、相手に伝える表現が分かる。コミュニケーションの中で自分の考えや思いを正しく伝えることができる。	・買い物・旅行・食事・電話での応答・手紙や電子メールのやりとり ・家庭での生活・学校での学習や授業・地域での行事	・コミュニケーションを円滑にする。 ・情報を与える。 ・考えや意見を伝える。 ・相手の行動をたずねる。	

さらに、この資料①については、以下のような目的で活用していくこととした。

- 授業において教師の指導や生徒の学びの目標を明確化するため
- 指導過程や指導方法について考える時に目標を明確化することで、より効果的でスパイラルな言語活動を設定するため
- 小・中・高の連携を図る研修会などで、接続を踏まえた指導内容や指導方法の在り方について考えるため

(2) 「小・中・高の接続を踏まえた」について

中学校学習指導要領解説外国語編では、「中学校における『聞くこと』『話すこと』という音声面での指導については、小学校段階での外国語活動を通じて、音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ、指導内容の改善を図る」と明記されている。また、高等学校学習指導要領改訂の基本方針では、「高等学校において、中学校における学習が十分でない生徒に対応するため、身近な場面や題材に関する内容を扱い、中学校で学習した事柄の定着を図り、高等学校における学習に円滑に移行するために必要な改善を図る」と明記されており、新たに「コミュニケーション英語基礎」が設けられた。このように新学習指導要領では、小・中・高を通じたコミュニケーション能力の育成が求められている。そのためには、小・中・高の接続を踏まえた指導内容や指導方法の工夫・改善が必要であると考えられる。

(3) 「タスク活動」について

タスク活動は、与えられた場面で目標文型や既習表現を最大限に用いながら、情報交換を通して与えられた課題を解決する活動である。タスク活動を通して目指すコミュニケーション能力を身に付けた生徒の態度を、以下のように設定した。

- ① 相手に自分の思いや考えを分かりやすい言葉に置き換えて伝えようとしている。
- ② 相手からの質問に対して適切に答えようとしている。
- ③ つなぎ言葉や相づち、聞き返し、ジェスチャー等を用いて積極的に会話を持続させようとしている。
- ④ アイコンタクトや表情を交えながら、相手を理解しようとしている。

2 英語学習に関する生徒の実態調査と研究の方向

(1) 調査目的

生徒の英語学習に関する実態を調査・把握し、コミュニケーション能力を育てる英語科の学習指導過程の手立てを明らかにする。

(2) 調査の詳細

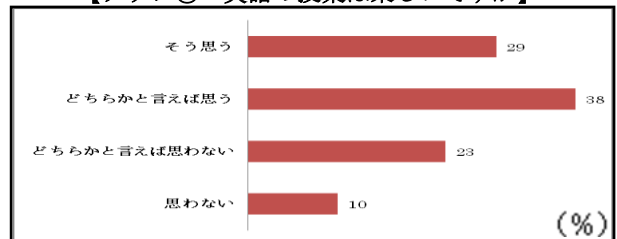
- ア 調査対象 宮崎市立宮崎中学校 第3学年 生徒 153名
- イ 調査方法 質問紙による選択法及び記述法
- ウ 調査期日 平成23年6月24日(金)

(3) 調査の結果と考察

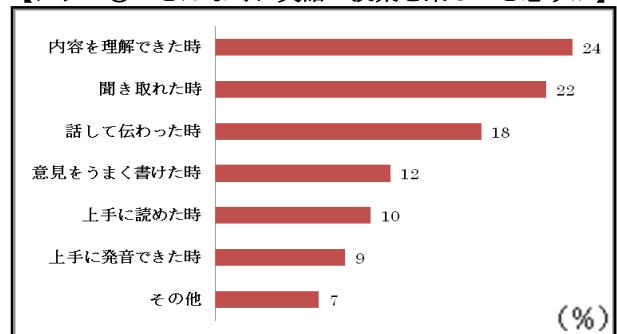
ア 英語の授業への関心度について

グラフ①を見ると、「英語の授業は楽しい」（「どちらかと言えば思う」も含む）と答えた生徒は、67%であった。グラフ②を見ると、「どんな時に英語の授業を楽しいと思うか」という質問では、「内容を理解できた時」や「英語を聞き取れた時」が約半数を占めた。また、グラフ③を見ると、「どんな時に英語を使いたいか」という質問では、33%の生徒が「海外旅行や海外留学した時」、32%の生徒が「日常生活で外国の人に会った時」と答えており、英語への興味・関心が高い傾向にあることが分かる。その反面、グラフ①を見ると英語の授業を楽しいと思っていない生徒が33%（「どちらかと言えばそう思わない」も含む）もいる。グラフ④から、その主な理由としては「英語を話したり書いたりする時に単

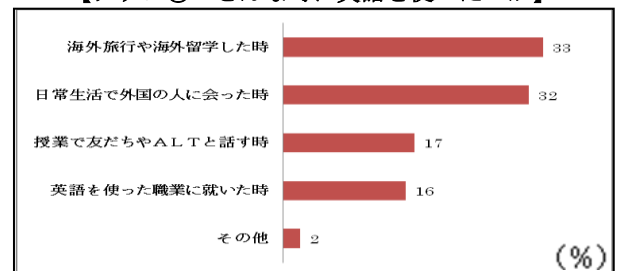
【グラフ① 英語の授業は楽しいですか】



【グラフ② どんな時に英語の授業を楽しいと思うか】



【グラフ③ どんな時に英語を使いたいか】



語や英文が分からない」や「英語を聞いたり、読んだりする時に内容が理解できない」と答えている。これらの原因は、これまでの指導が語彙や基本文の知識の習得や単純な反復練習に偏りすぎていたために、習得した知識・技能を活用する言語活動が不十分であったからだと考える。

イ 授業について

グラフ⑤を見ると、「アイコンタクト」に関しては、十分でないにしても8割の生徒が行っている。また、グラフ⑥を見ると、「相手を理解しようとする意識」も程度の差はあれ9割以上の生徒が相手を意識して言語活動に取り組んでいる。これらのことから、相手の気持ちを考えてコミュニケーションを図ろうとする意欲については概ね良好であると考えられる。しかし、グラフ⑦やグラフ⑧を見ると、つなぎ言葉や相づち、ジェスチャーなどを交えながらコミュニケーションを持続させていこうとする技能面については、6割以上の生徒ができていないと答えている。

これは、言語活動を行う際に、つなぎ言葉や相づち、ジェスチャーを意識して使うことの指導が十分ではなかったことに加え、言語活動がこれらの技能を用いなくても行えるような内容になっていたことが原因であると考えられる。

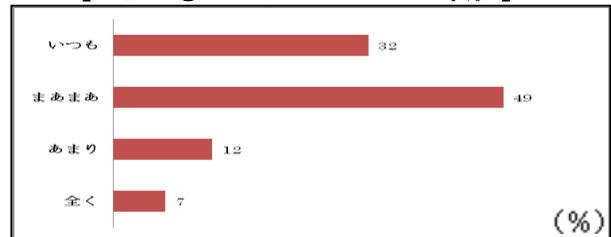
ウ 調査のまとめ

以上のことから、小学校や高等学校の指導方法や指導内容、系統などを理解した上で、指導過程の工夫を行うことが重要であると考えられる。また、つなぎ言葉や相づち等に加え、言葉の言い換えを交えて自分の思いや考えを表現し、コミュニケーションが長く続くような指導を行う必要もあると考えられる。さらに、より現実的な場面で新表現や既習表現を用いて自分の思いや考えを伝え合うタスク活動を設定し、生徒にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さ、難しさを味わわせることも重要であると考えられる。

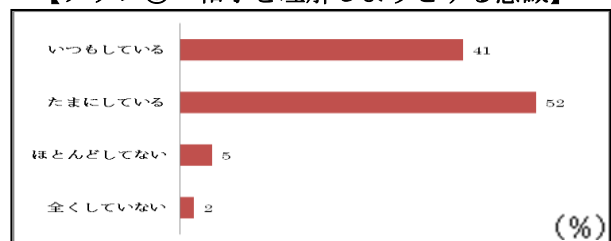
【グラフ④ どんな時に授業を楽しいと思わないか】



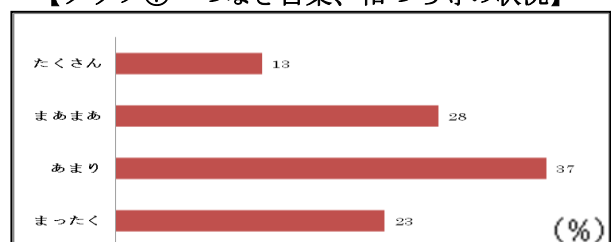
【グラフ⑤ アイコンタクトの状況】



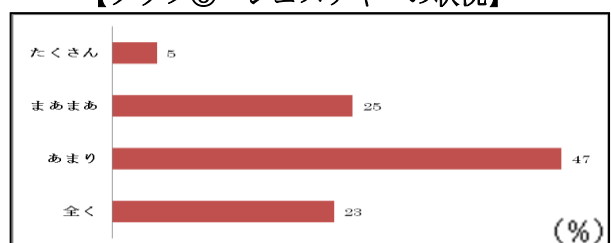
【グラフ⑥ 相手を理解しようとする意識】



【グラフ⑦ つなぎ言葉、相づち等の状況】



【グラフ⑧ ジェスチャーの状況】



(4) 事前調査の結果を踏まえた研究の基本的な考え方

- ア 小・中・高の接続を踏まえた指導内容や指導方法の工夫を行う。
- イ 自分の思いや考えを伝え合うタスク活動を取り入れた指導過程の工夫を行う。
- ウ コミュニケーションを持続させるための手立ての工夫を行う。
- エ 英語学習に対する興味・関心や意欲を高める教材・教具の工夫を行う。

3 小・中・高の接続を踏まえた指導内容や指導方法の工夫

(1) 小学校との接続を踏まえた教材の工夫

中学校の指導においては、小学校段階での外国語活動の素地を踏まえて、指導内容の改善を図ることとされている。そこで、小学校との接続では、小学校で主な教材として用いられている英語ノートの一部を用いて新出表現の導入の工夫を行ったり、ウォームアップとして英語ノートを活用したクイズを行ったりすることとした。このように、英語ノートをスパイラルに活用して小学校の学びを生かすことで、コミュニケーションへの関心・意欲・態度が高まり、中学校の英語学習に対する安心感が生まれるものとする。

(2) 高等学校との接続を意識した指導過程の工夫

高等学校学習指導要領外国語科の改訂の要点の一つとして、中学校における学習との円滑な接続を図る科目として「コミュニケーション英語基礎」が新設されるとともに、言語の使用場面の例や言語の働きの例についても、中学校との系統を一層重視した改善が図られている。また、言語活動については、「中学校段階で学習した語、連語及び慣用表現並びに文法事項」を中心に扱いつつも、この科目が高等学校外国語科の科目であることを踏まえて、「言語活動を英語で行う必要がある」とされている。このことから、高等学校への接続を意識して、スピーチやプレゼンテーション等の発展的な言語活動を指導過程の中に取り入れることで、高等学校の英語科へスムーズに移行させるための指導方法の工夫・改善を図っていくことが必要であるとする。

4 自分の思いや考えを伝え合うタスク活動

これまでのコミュニケーション活動の在り方を振り返ってみると、基本本文の定着練習に偏りすぎていたため、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度を高めることができていなかった。そこで、コミュニケーション活動にタスク（課題）を設定することで、生徒はお互いに自分の思いや考えを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さ、難しさを味わうことができるものとする。また、タスクの設定により活動のねらいが明確になり、生徒はより積極的に活動に取り組むことができるものとする。

(1) タスク活動が成立する条件及びタスクのタイプ

東京外国語大学の高島英幸教授は、タスク活動が成立する条件として以下の6つの項目を挙げており、本研究においても、基本的にこれらの条件を踏まえて行うこととした。

【タスク活動が成立する条件】

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">① 意味・伝達内容が中心であること。② 言語を用いて与えられた活動目標を達成することが第一義であること。③ 意味のやりとりがあること(聞き返し、質問等)。④ 二つ以上の文構造の比較があること。 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- ⑤ 話し手と聞き手に情報（量）の差があること。
- ⑥ 活動や得られる情報が興味深いものであること。

さらに、高島氏は、Pica, Kanagy and Falodun の論から、言語習得や学習に効果的なタスクとして、それぞれの特徴によって以下の5つのタイプに分類されたタスクを設定している。

【タスクの5つのタイプ】

	タスク名	タスクの内容
①	ジグソータスク	学習者は二人以上で、それぞれの情報の一部を分けもち、もち合わせていない他の情報を交換したり、補ったりして、お互いの情報を合わせて一つの全体を完成させるタスク
②	インフォメーションギャップタスク	学習者の一方が目標達成に必要な情報をすべてもち、他の学習者はその情報を聞き出すタスク
③	問題解決タスク	学習者がある問題を解決するために最善策を検討するタスク
④	意志決定タスク	学習者が情報を交換したり交渉したりして、何らかの結論を導こうとするタスク
⑤	意見交換タスク	学習者がある程度必要な情報をもち、ある話題について未知の情報を交換したり、お互いの意見を交換したりするタスク

(2) タスク活動を指導過程に位置付けるための視点

タスク活動を、以下の視点で指導過程に位置付け、研究を進めることとした。

- ① 各学年のコミュニケーション能力の到達段階（資料①）を目指すものであること。
- ② 自分の思いや考えの伝達や意味のやりとり（聞き返し、質問等）が中心であること。
- ③ 教科書の題材内容と関連があること。
- ④ 目標とする文構造を自然に用いる場面設定であること。

(3) タスク活動を位置付けた単元の流れ

タスク活動を指導過程に位置付けるに当たって、生徒が無理なくタスク活動を行うことができるように、従来行ってきた単元全体の基本的な流れを資料②のように四つの段階に分けた。タスク活動を単元の目標として、ふかめる段階に位置付けることで、それぞれの段階で身に付けさせなければならない力を明確にして指導を行うことができるようになると思われる。

【資料②】 タスク活動を取り入れた単元全体の流れ

段階	つかむ	ひろげる			まとめる	ふかめる										
各段階の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習する単元の文化的背景、異文化理解などについて話し合ったり、調べたりして、学習の見直しをつかむ。 ○ 単元におけるゴールイメージ（ふかめる段階）をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出単語や基本文の学習を通して、生徒は表現の幅をひろげる。 ○ 本文の内容を理解することを通して、生徒は主人公の考えに触れたり、自分の経験や考えと比較したりして、自分なりの考えをひろげる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ つかむ・ひろげる段階で学習した内容を整理し、まとめる。 ○ <u>ふかめる段階でのタスク活動に向けて準備や練習を行う。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元で学習した内容に関連したタスク活動を行う。その際、既習の表現や新出表現を最大限に用いて、自分の思いや考えを伝え、表現に幅や深まりのある活動を設定する。 										
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合い活動 ○ 調べ活動・発表 ○ 表現活動のビデオ視聴 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出表現 ○ 新出単語 ○ 本文内容理解 	○ 単元の復習	○ 表現活動	○ タスク活動											
時数	1時間	1時間 Section 1	1時間 Section 2	1時間 Section 3	2時間	2時間										
本単元での学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国と日本の文化や習慣の違いについて知っていることを出し合う。 ○ インターネットを使って、外国の文化についての調べ活動を行い、発表する。 ○ 単元の目標や評価方法について確認する。 	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>段階</th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>つかむ</td> <td>基本文導入 ドリル</td> </tr> <tr> <td>ひろげる</td> <td>プラクティス 新出単語の練習</td> </tr> <tr> <td>まとめる</td> <td>本文の内容理解 音読(暗唱)</td> </tr> <tr> <td>ふかめる</td> <td>コミュニケーション活動</td> </tr> </tbody> </table>			段階	活動内容	つかむ	基本文導入 ドリル	ひろげる	プラクティス 新出単語の練習	まとめる	本文の内容理解 音読(暗唱)	ふかめる	コミュニケーション活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ Let's Practice ○ <u>Let's Communicate</u> 	<ul style="list-style-type: none"> (タスク活動1) ○ 友だちに我が家の文化を説明しよう。 (タスク活動2) ○ ALTに宮崎の文化を説明しよう。
段階	活動内容															
つかむ	基本文導入 ドリル															
ひろげる	プラクティス 新出単語の練習															
まとめる	本文の内容理解 音読(暗唱)															
ふかめる	コミュニケーション活動															

(4) タスク活動シートの作成及び活用

タスク活動の活発化を図るために、資料③のように、生徒A用と生徒B用の2種類のタスク活動シートを作成し、話し手と聞き手の情報や情報量に差があるような活動を設定した。

ア タスク活動シート（生徒A用）

生徒A用のタスク活動シート（資料③）では発話しやすいように、日本語で自分の考えをまとめる欄を設けた。日本語で書かせることによって、生徒は既習事項や新出表現を用いて、自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとすると考えられる。また、話の流れに沿って筋道を立てて相手に分かりやすく話すための論構成の工夫も行った。

イ タスク活動シート（生徒B用）

生徒Bのタスク活動シート（資料④）では生徒Aの紹介した内容について話の流れに沿ってメモをとる欄や質問を考える欄を設けた。そのことにより、生徒Bは生徒Aの発信した内容を考えながら聞き取ることができるとともに、自分の考えと比較して相手の話を聞くことができるような工夫を行った。

(5) 自己評価表（振りかえりシート）

自己評価表（資料⑤）は、タスクが成立する条件の6項目や生徒の実態調査を基に、次の5項目について自己評価できるようにした。


【自己評価表の評価項目】

項目1	友達に正確に紹介することができた。 (発話の正確性)
項目2	友達の顔や目を見ながら、笑顔で紹介することができた。 (相手意識)
項目3	わかりやすく紹介できた。 (言葉の言い換え)
項目4	友達に今までに習った英語を使って紹介できた。 (既習事項の使用)
項目5	楽しく活動できた。 (楽しさ)

【資料③ タスク活動シート（生徒A用）】

【友だちに「我が家の文化」を紹介しよう！】

NAME ()



生徒A〈説明〉用

ルールを守る！！
① この紙は絶対に見られないように！
② 実演だけを撮ろう！
③ あいさつや余剰は目を見て笑顔で！

① あなたがからペアの人に話しかけます。ペアの人に「我が家の文化について紹介するつもりである。」ことを伝えましょう。

② あなたは、あなたの家の「我が家の文化」についてペアの人に説明をしましょう。ただし、相手にわかるように、わかりやすく説明しましょう。1つの説明が終わったら、別の人が質問したり、補足したりしますので、答えましょう。

④ 友だちに、「我が家の文化」を紹介しましょう。
【紹介する内容】・・・下の口に見た感じ「我が家の文化」の具体的な内容を書きましょう。
文化①（その口の横に1つの文化だけ書きましょう）

＊（First・・・）で、始めよう。
文化①

＊（Second・・・）で、始めよう。
文化②

＊（Third・・・）で、始めよう。
文化③


＊（Fourth・・・）で、始めよう。
文化④

③ 終わったら、説明が終わった方が、お互いに確認をして、あいさつをして終了です。

【資料④ タスク活動シート（生徒B用）】

【友だちに「我が家の文化」を紹介しよう！】

NAME ()



生徒B〈質問〉用

ルールを守る！！
① この紙は絶対に見られないように！
② 実演を撮ろう！
③ あいさつや余剰は目を見て笑顔で！

① ペアの人がある人に話しかけます。ペアの人の持っていることについて1つ以上質問をします。

② ペアの人が説明をします。質問を考えながら、説明を聞きましょう。1つの説明が終わったら、補足した内容について、補足したり、質問したりしましょう。そして、補足した内容を下の口にあてていきます。

下の口に見た感じ内容を整理しよう。
文化① 質問 ()
(内容)

文化② 質問 ()
(内容)

文化③ 質問 ()
(内容)

文化④ 質問 ()
(内容)

③ 終わったら、説明が終わった方が、日本語で確認をして、あいさつをして終了です。

【資料⑤ 自己評価表（振りかえりシート）】

振りかえりシート

Class (5) No () Name ()

活動名：「**やってみたいボランティア活動**」について紹介しよう。

① 活動の様子を振りかえって、下記の表に○（できた）、△（少しできた）、×（できなかった）ことを記入しましょう。

チェック事項	活動の様子
<input type="checkbox"/> 積極的に活動に参加できましたか。	
<input type="checkbox"/> 自ら進んでペアやグループの人とコミュニケーションを図ろうとしましたか。	
<input type="checkbox"/> ボランティアの紹介をすることができましたか。	
<input type="checkbox"/> ボランティアの紹介を聞いて質問することができましたか。	
<input type="checkbox"/> あいづちやつなぎ言葉、聞き流しの表現を使うことができましたか。	
<input type="checkbox"/> 分かりやすい表現や難しい言葉は言い換えを意識して活動できましたか。	

② ボランティア活動の紹介を聞いて、得意なボランティア活動をやりたいと思いましたか。また、その理由を教えてください。

(やってみたいボランティア活動) ()
(その理由)

③ 今日の授業を通して、学んだことは何ですか。できるだけ、たくさん書いてください。

* ありがとうございます。

5 コミュニケーションを持続させるための手立ての工夫

中学校学習指導要領解説外国語編の言語活動の内容に明記されているようにコミュニケーションを持続させるためには、つなぎ言葉や相づち、言葉の言い換えなどに加えて、非言語である表情やジェスチャー等をコミュニケーションに交えることも重要であると考えます。生徒の言語活動の様子を振り返ると、生徒は相手を意識して表情やジェスチャーを交えることやつなぎ言葉や相づちなどを用いてコミュニケーションを持続させていくことが十分ではなかったと考える。また、難しい言葉を易しい言葉に言い換えることができず、言語活動がスムーズに進まない場面が多く見られた。そこで、検証授業Ⅰでは、つなぎ言葉、相づち、表情、ジェスチャーなどを、検証授業Ⅱでは、言葉の言い換えを中心とした技能を用いて、コミュニケーションを持続させるための手立ての工夫を行っていくこととした。

6 英語学習に対する興味・関心や意欲を高める教材・教具の工夫

(1) コンピュータの活用

コンピュータを活用することにより、画像や動画等を用いて生徒の授業への興味・関心や意欲を高めることができると考える。また、プレゼンテーションソフトを用いて生徒に活動の見通しを視覚的にもたせたり、指示や説明の時間の効率化を図ったりすることにより、活動の十分な時間を確保したり、コミュニケーションの質を高めたりすることができると思う。

(2) ビデオを活用した振り返り活動の工夫

タスク活動の様子をビデオに撮影し、それを活動後、すぐに視聴させることによって、生徒は自分たちの活動状況を客観的に振り返ることができる。そうすることにより、コミュニケーションの質（態度及び発話内容）を意識させることができるとともに、その後の英語学習への意識付けになるものとする。

7 検証授業の実際

(1) 検証授業Ⅰ

ア 検証授業Ⅰの実際

(ア) 単元名：Program 3 Don't Ask Me That Question!(Sunshine English Course 3)

(イ) 実施日/実施学級：平成 23 年 7 月 12 日（火）/宮崎市立宮崎中学校 3 年 5 組（20 名）

(ウ) 本時の目標

- 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。
- 自分の言葉で自信をもって「我が家の文化」を友達に紹介することができる。

(エ) 学習指導過程（* 文字がゴシック体の部分は研究内容）

時間	段階	学習内容及び学習活動	教師の支援	研究内容
2分	導入	1 英語であいさつをする。 2 英語ノートを用いた「習慣」についてのクイズを行う。	○ 本時のめあてに関するクイズを設定し、円滑にめあてをつかませる。	○ 小・中学校の接続（教材）

10分	つかむ	3 本時のめあてを把握する。 友達に我が家の文化を紹介しよう。 4 本時の活動の流れを理解する。 ○ 活動の説明を聞く。 ○ 教師のデモンストレーションを聞く。 ○ つなぎ言葉、相づち、聞き返し、言葉の言い換えの練習を行う。	○ 活動の見通しがもてるように、プレゼンテーションソフトで分かりやすく説明する。 ○ どういう時に使われる表現なのかを理解させてから練習させる。	○ 教材・教具の工夫 ○ コミュニケーションを持続させるための手立て
5分	ひろげる	5 タスク活動の1回目を行う。 ○ 生徒Aは、「我が家の文化」について紹介する。 ○ 生徒Bは、生徒Aの紹介に対して聞き返したり質問したりする。	○ 自己評価の項目については事前に生徒に提示し活動のポイントを意識させる。	○ タスク活動
15分	まとめる	6 1回目のタスク活動の様子をビデオ視聴する。 7 よかった点や改善点についてペアで話し合う。	○ ビデオで活動の様子を振りかえる視点について説明する。	○ 教材・教具の工夫
10分	ふかめる	8 2回目のタスク活動を行う。 (生徒B・・・紹介、生徒A・・・質問) 9 2回目のタスク活動の様子をビデオ視聴する。 10 よかった点や改善点についてペアで話し合う。	○ 1回目のよかった点や改善点を参考にするのを伝えておく。	○ タスク活動 ○ 教材・教具の工夫
8分	終末	11 自己・相互評価をする。 12 次時の学習内容を確認する。 13 英語であいさつする。		

イ 授業の考察

(7) 小・中学校の接続を踏まえた指導内容や指導方法の工夫

導入の段階で、小学校の外国語活動で用いられている英語ノートを用いて、外国の習慣や文化の違いについて導入を行った。本時のめあてと関連のある内容について英語ノートで導入を図ることにより、スムーズに本時のめあてを把握させることができた。

(イ) 自分の思いや考えを伝え合うタスク活動

検証授業Ⅰでは、「友達に我が家の文化を紹介しよう」というタスク活動を設定した。生徒はペアでタスク活動シートA、Bに分かれて活動を行った。「我が家の文化」についての原稿は事前に日本語で準備させた。これは、実際のコミュニケーションの場面を想定し、即興で英語を使用させることをねらいとするためである。実際のタスク活動の様子を見ると、資料⑥のように、生徒は自分の知っている表現やジェスチャー等を用いて、自分の考えを何とかして伝えようとしたり、相手に聞き返したりして相手の思いや考えを理解しようとする姿が見られた。

【資料⑥ タスク活動における生徒の発話内容の書き起こし】・・・一部抜粋

A: 生徒A (紹介)	B: 生徒B (質問)
A: First, my father gets up early in the morning.	B: What time?
A: 6 o'clock.	B: You?
A: I'm get up six thirty o'clock.	B: Oh, I see.
A: Second, my family like dance.	B: Pardon?
A: Pardon?	B: Pardon?
A: My family like dance.	B: How do you like?
A: How do you like dance?	B: What dance?
A: I like hip-hop.	B: Next, please.
A: Third, we go to the bed in the same room.	B: How many families?
A: Five.	B: Five. Bed or in floor?
A: Bed or floor? <i>Futon?</i>	B: Bed or floor.
A: Floor.	B: Next.
A: Fourth, We are watch TV together. We are together watch TV.	B: When do you watch TV?
A: When do you watch TV ? Free time.	B: How do you like watch TV?
* 文法の誤りも、そのまま掲載	* 以下省略

また、今回の授業の振り返りシートを見ると、活動の評価は資料⑦のような状況であった。すべての生徒が楽しく活動できたと答えている。しかし、相手に自分の考えを正確に分かりやすく説明することが課題であると考える。

【資料⑦ 振り返りシート (自己評価表) によるタスク活動の生徒評価】

	評価項目	平均点
生徒A	「我が家の文化」を正確に紹介できた。	2. 1
	顔や目を見ながら、笑顔で紹介できた。	2. 8
	分かりやすく紹介できた。	2. 2
	今までに習った英語を使って、紹介できた。	2. 5
	楽しく活動できた。	3. 0
生徒B	「我が家の文化」を正確に聞き取れた。	2. 5
	顔や目を見ながら、笑顔で紹介を聞けた。	2. 9
	紹介のわからなかったことを聞き返したり、質問したりできた。	2. 3
	今までに習った英語を使って、質問できた。	2. 3
	楽しく活動できた。	3. 0

(○ : 3点～とてもよくできた △ : 2点～できた × : 1点～あまりできなかった)

さらに、生徒は「今日の授業を通して、どういうことを学びましたか」という質問に次のように答えている。

* 下線部は、「生徒の気付き」

〈コミュニケーションを図ることの楽しさ〉

- 難しかったけど、自分の言いたいことを伝えるのは楽しかったし、単語を言えばある程度伝わるということが分かった。

○ 自分のことを伝えることの大変さと伝わった時のうれしさを感じることができた。

〈言葉の言い換えの大切さ〉

○ お互いに分かりやすく伝えることが大切であると分かった。

〈表情やジェスチャーの大切さ〉

○ コミュニケーションを図るのは難しいと思ったが、ジェスチャーや表情がとても大事だと分かった。

これらの感想から、生徒は英語でコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さ、難しさを感じることができたと考える。また、表情やジェスチャーを交えた相手意識の大切さ、発話の正確さや分かりやすさの重要性についても理解できたと考える。

(ウ) コミュニケーションを持続させるための手立ての工夫

コミュニケーションを持続させるための工夫として、よく日常生活で用いられる相づちや聞き返し、つなぎ言葉等を一覧にしてまとめたコミュニケーションスキルアップシート（資料⑧）を作成し、生徒に配付した。検証授業Ⅱでは、このシートにある表現の口頭練習を行った後、実際に、これらの表現を用いたタスク活動を行った。生徒は実際に“Excuse me?”や“Pardon?”等を用いてコミュニケーションを持続させていこうとする姿が見られた。また、言葉の言い換えについても、知らない言葉は既習の表現を用いて何とか自分の考えを伝えようとする姿が見られた。

【資料⑧】 コミュニケーションスキルアップシート

相づちの表現 …相手の言ったことについて、会話を弾ませたい時

相手の言ったことに対して上手に相づちが打てるようになる会話のはずみです。相手は、自分の話を聞いてもらっていると思うとどんどん話そうようになります。相づちを打つようにしましょう。初めは難しく感じてもかまいませんが、慣れれば簡単です。相づちを使った動詞や助動詞に注目です。

1. Ya (や…同意を表すYes略語)	うん、ええ。
2. Uh/huh! (アー/ア…同意を表すYes略語 * ハーを強く)	うん、ええ。
3. Are you sure? (Really? Is that right?)	本当ですか。
4. I see.	なるほど。
5. Right! (That's right.)	その通りです。
6. That's good/interesting.	いい/面白いですね。
7. That's too bad.	それは本当に残念(大変)でしたね。
8. He is from London.—Oh, is he? 彼はロンドン出身なんですか。—どうなんですか。	
9. Last night, I went to see a movie.—Oh, did you? 昨夜、映画に行きましたよ。—あ、そうだったの。	
10. She can speak five languages.—Oh, can she? 彼女は5ヶ国語話せるんですよ。—どうなの。	

つなぎの表現 …相手に対して、すぐに返答できない時

急に質問されたときなど、急に返答できないことありませんか。そんなときに黙ってしまったり、相手は自分の話を理解してもらえなかったとか、へたをするなど無視されたか誤解してしまうかもしれません。ですから、こうした場合には、こちらが考え中だ、ということをつなぎの表現で相手に伝えましょう。

1. Well.	ええと…
2. Well let's see. (Well, let me see.)	ええと、そうですね…

聞き返しの表現 …相手の言ったことが聞き取れなかった、分からなかった時

1. Pardon (me)?	何ですか？
2. (I'm) sorry? (上がり聞き)	すみません、もう一度お願いします。
3. Excuse me? (上がり聞き)	もう一度、言ってください。
4. (相手の言った言葉は聞き取れただけでも真意が分からなかった場合)	
What do you mean by that?	それは、どういう意味ですか。

(エ) 英語学習に対する興味・関心や意欲を高める教材・教具の工夫

タスク活動の見通しをもたせるために、プレゼンテーションソフトを用いてタスク活動の説明を行った。資料⑨はそのスライドの一部であるが、生徒の感想を見ると、「活動の手順がいつもより分かりやすかった」と多くの生徒が答えている。また、生徒はタスク活動の様子を撮影したビデオを振り返って見ることにに関して、「ビデオで活動の様子を振り返ることによって、参考にすべき点や改善すべき点がよく分かった」と答えている。これらのことから、教材・教具の工夫が生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度を高めるばかりでなく、コミュニケーションの質の向上にもつながったと考える。

【資料⑨】 プレゼンテーションのスライドの一部

表現活動の説明

① 活動形態	ペア(生徒A、生徒B)
② 活動時間	5分間
③ 活動内容	活動1回目→ビデオ視聴→話し合い * 生徒Aは文化を紹介 * 生徒Bは聞き取り、質問、メモ
	活動2回目→ビデオ視聴→話し合い * 生徒Aと生徒Bが交代

表現活動の例
先生の「我が家の文化」紹介①

- ・ 家事は家族みんなで分担している。



(2) 検証授業Ⅱ

ア 検証授業Ⅱの実際

(ア) 単元名：Program 5 Working as a Volunteer (Sunshine English Course 3)

(イ) 実施日/実施学級：平成 23 年 10 月 18 日 (火) /宮崎市立宮崎中学校 3 年 5 組 (20 名)

(ウ) 本時の目標

- 積極的にタスク活動に取り組み、主体的にコミュニケーションを図ろうとする。
- やってみたいボランティア活動について紹介したり、質問したりできる。

(エ) 学習指導過程 (* 文字がゴシック体の部分は研究内容)

時間	段階	学習内容及び学習活動	教師の支援	研究内容
4分	導入	1 英語であいさつをする。 2 英語ノート1の表紙を見て、ボランティア活動について考える。 3 英語ノート2を使ってボランティア活動クイズを行う。(英語ノート2 P39参照)	○ 英語ノートを提示し、質問を行いながらスムーズに本時のめあてにつなげる。	○ 小・中学校の接続(教材) ○ 小・中学校の接続(活動)
13分	つかむ	4 本時のめあてを把握する。 5 本時の活動の流れを理解する。 ① 活動の説明と教師のデモンストレーションを聞く。 ② ボランティア活動の種類の説明を聞く。 ③ 言い換え表現に慣れる。	○ 言葉の言い換えの仕方について説明した後、実際に献血の言い換えについて考えさせる。	○ 教材・教具の工夫 ○ コミュニケーションを持続させるための手立て
5分	ひろげる	6 タスク活動の1回目を行う。 ○ ペアを作り、生徒Aはボランティア活動について紹介し、生徒Bは聞き返したり、質問したりする。	○ 自己評価の項目について事前に生徒に提示し、活動のポイントを意識させる。	○ タスク活動
7分	まとめる	7 タスク活動の様子をビデオで振り返り、よかった点や改善点についてペアで話し合う。 ○ 笑顔 ○ 分かりやすさ ○ ジェスチャー ○ 相づち ○ 聞き返し ○ つなぎ言葉		○ 教材・教具の工夫
18分	ふかめる	8 タスク活動の2回目を行う。 ○ 2回目は4人グループで、それぞれボランティア活動について英語で紹介する。 ○ 各グループでやってみたいボランティア活動を決定し、スローガンを作成して英語でプレゼンテーションを行う。	○ グループごとに司会者を決めさせ、司会者にマニュアルシートを基にグループで話し合いをさせる。	○ タスク活動 ○ 中・高等学校の接続(活動)
3分	終末	9 自己評価を行う。 10 次時の学習内容を確認する。 11 英語であいさつをする。		

イ 授業の考察

(7) 小・中・高の接続を踏まえた指導内容や指導方法の工夫

小学校での外国語活動との接続を図るために、英語ノートの活用を図った。本時では、英語ノートの表紙を用いた導入の工夫を行った。生徒に英語ノート1の表紙にあるボランティア活動を行う子どもたちの挿絵を見せながらいくつかの質問を行うことで、本単元の題材であるボランティア活動と関連付けた導入をスムーズに行うことができた。また、ウォームアップの段階では英語ノートを用いたボランティア活動に関するクイズ（資料⑩）を行い、生徒のボランティア活動に関する興味・関心を高めることができた。さらに、高等学校との接続を図る手立てとして、2回目のタスク活動後に、グループでやってみたいボランティア活動とそのスローガンを考え、理由を添えて紹介するプレゼンテーションを英語で行った。資料⑪は、そのプレゼンテーションの様子である。生徒は、英語のプレゼンテーションは初めてであったが、グループで協力してスローガンとその理由をまとめることができた。資料⑫は生徒がスローガンを記述したカードである。どの班のスローガンも既習の表現や言葉の言い換えを用いて、自分たちの考えを伝えようとよく工夫して作成されていた。

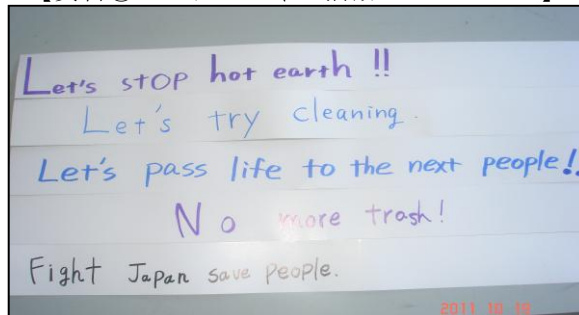
【資料⑩ ボランティア活動クイズの様子】



【資料⑪ プレゼンテーションの様子】



【資料⑫ ボランティア活動のスローガン】



(イ) 自分の思いや考えを伝え合うタスク活動の導入

検証授業Ⅱでは、「やってみたいボランティア活動について発表しよう」というタスク活動を設定した。1回目のタスク活動は、ペアでタスク活動シートA（紹介）、タスク活動シートB（質問）に分かれて、それぞれ両方の役割を行った。検証授業Ⅰで行った時に比べて、生徒は活動にも慣れており、短時間でスムーズに行うことができた。資料⑬は、タスク活動における生徒の発話内容を書き起こしたものである。その発話内容を見ると、つなぎ言葉や相づち、聞き返しばかりでなく、言葉の言い換えを使って、自分の考えを伝えようとしていることが分かった。また、発話の質や量についても検証授業Ⅰに比べて、向上が見られた。詳しい比較分析については、後述する。

【資料⑬ タスク活動における生徒の発話内容の書き起こし】・・・一部抜粋

A: 生徒A (紹介)	B: 生徒B (質問)
A: I would like to tell you about my favorite volunteer activity. I would like to volunteer giving blood because when I don't have time. First time.	B: OK. First time!
A: Another. Well, let me see.... I brought give, give, give.	B: Try again.
A: Only volunteer very very OK.	B: OK? I have a question. Why do you give another people your blood?
A: Pardon?	B: Is giving blood OK?
A: Of course. OK.	B: Sure?
A: OK! Thank you for everything.	B: You're welcome.
* 文法の誤りも、そのまま掲載	

次に、今回の授業の振り返りシートを見ると、活動の評価は資料⑭のような状況であった。ほとんどの生徒が「自ら進んでペアやグループの人とコミュニケーションを図れた」と回答している。これは、つなぎ言葉や相づち、聞き返しの表現を積極的に用いることによって、コミュニケーションを持続することができたためであると考えられる。

【資料⑭ 振り返りシート (自己評価表) によるタスク活動の生徒評価】

評価項目	平均点
積極的に活動に参加できた。	2. 8
自ら進んでペアやグループでコミュニケーションを図れた。	2. 7
ボランティア活動について正確に紹介することができた。	2. 7
ボランティア活動についての紹介を聞いて、友達に質問できた。	2. 5
相づちやつなぎ言葉、聞き返しの表現を使うことができた。	2. 5
難しい言葉は「言葉の言い換え」を意識して、分かりやすく紹介できた。	2. 6

(○: 3点~とてもよくできた △: 2点~できた ×: 1点~あまりできなかった)

さらに、生徒は「今日の授業を通して、どういうことを学びましたか」という質問に次のように答えている。

* 下線部は「生徒の気付き」

〈言葉の言い換えを用いて相手に分かりやすく伝えること大切さ〉

- 自分の考えを相手に伝えるには、言い換えができるかできないかで大きく変わってくるということが分かった。

〈コミュニケーションを持続させることの大切さ〉

- 英語で会話をする時は、日本語で話す時よりもあいづちや聞き返したりしながら聞くことが大切だと思った。

〈ボランティア活動に対する考え方〉

- ボランティア活動に今後どのように関わっていけばよいのかを考えることができた。

〈コミュニケーションを図ることの楽しさ〉

- グループの中でコミュニケーションを図っていくことの大切さや面白さが分かった。

これらの感想から生徒は、つなぎ言葉や相づち、言葉の言い換え等を用いてコミュニケーションを持続させることの重要性や、ペアやグループ活動を通してコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さ、難しさについて体感することができたと考える。

(ウ) コミュニケーションを持続させるための手立ての工夫

検証授業Ⅰの「資料⑦振り返りシート（自己評価表）によるタスク活動の生徒評価」を見ると、発話の正確性や分かりやすさにおいて課題が見られた。つまり、コミュニケーションを持続させようとしても、表現したい文や単語が思い浮かばないということが分かった。そこで、検証授業Ⅱでは、コミュニケーションを持続させるための工夫として、「言葉の言い換え」を中心にした指導過程の工夫を行った。資料⑮は、その時に提示したスライドの一部である。言葉の言い換えは、「①難しい日本語→易しい日本語 ②英語に直す」という手順で行った。生徒のタスク活動の様子を見ると、言い換えを用いて自分の思いや考えを何とかして伝えようとする姿が見られ、言葉に向き合う姿勢が高まったと考える。

【資料⑮ 言葉の言い換えのスライド】

「言い換え」のポイント

① 難しい日本語 ➡ 易しい日本語
② 英語に直す。

「言い換え」のポイント
例 1
献血 = 血を与えること
「giving blood」

(エ) 英語学習に対する興味・関心や意欲を高める教材・教具の工夫

検証授業Ⅰと同様、タスク活動の見通しをもたせるために、プレゼンテーションソフトを用いてタスク活動の説明を行ったり、ビデオを用いて自分たちの活動を振り返ったりした。資料⑯はプレゼンテーションソフトのスライドの一部であるが、アンケートの感想から、「活動の説明がとても分かりやすかった」「自分たちの会話している様子を見て振り返ることができ、大変参考になった」「見やすいし、自分たちの活動している様子が分かるので、反省しやすかった」と回答しており、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度を高めるばかりでなくコミュニケーションの質の向上にもつながったと考える。

【資料⑯ プレゼンテーションのスライドの一部】

volunteer quiz

タカシ
ケイコ
ヨウコ
ケンジ

先生が考えるボランティア活動例

In my case, I'd like to do two volunteer activities. I want to **give blood** and **body parts** because I will make many people happy.

心臓 腎臓 心臓
肝臓 肺 腎臓
肺 眼 血管、耳小骨
小腸 眼球 気管、骨

脳死 心停止

8 研究の仮説の検証及び考察

(1) 仮説①の検証

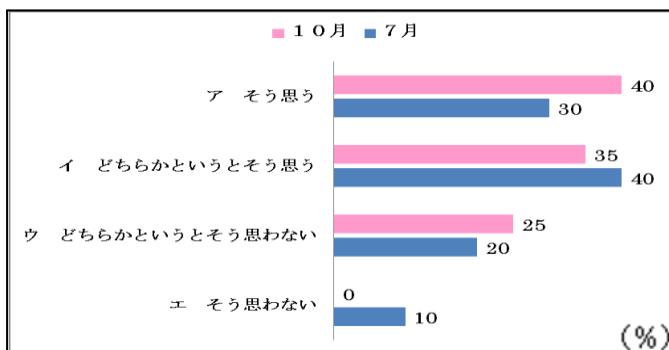
ア 仮説①

小・中・高の接続を踏まえた指導内容や指導方法の工夫を行えば、生徒はコミュニケーションに対する関心・意欲・態度が高まり、言語活動に積極的に取り組むであろう。

イ 仮説①の検証結果

7月と10月に行った検証授業の後に授業を実施した20名の生徒を対象にアンケートを行った。資料⑰を見ると、今回のような授業を通して、コミュニケーションへの関心・意欲・態度が高まったと考える。その理由について、生徒は以下のように答えている。

【資料⑰ 今日授業は楽しかったですか】



- みんなでコミュニケーションをとることができた。
- 今日の授業では生徒同士で話し合いをすることができた。
- ペアやグループの人と英語のみで意見の交換ができた。
- 今まで習った英語だけで話が通じて楽しかった。
- 英語で自分のしたいことを話すことは、とても楽しかった。
- 英語を好きになることが大切で、好きになれば話せるようになると思った。

7月に行った検証授業Ⅰでは、10%（2名）の生徒が楽しくなかったと答えている。その理由としては、タスク活動が初めての体験であったために、やり方に戸惑ったと答えていた。

(2) 仮説②の検証

ア 仮説②

- タスク活動を取り入れた指導過程の工夫を行い、自分の思いや考えを伝え合う言語活動を設定すれば、生徒はコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを体感し、コミュニケーション能力における「話すこと」「書くこと」の能力が向上するだろう。

イ 仮説②の検証結果

タスク活動の様子をビデオ撮影し、それを書き起こした英文（資料⑥と資料⑬）の比較を行った。資料⑱を見ると、検証授業Ⅰに比べて、検証授業Ⅱで生徒が一回の発話で用いた語彙数が増えている。また、対話の中で、相手の発話に対して聞き取れなかったり、理解できなかったりするときに用いられる聞き返しの表現である“Pardon?”が検証授業Ⅰでは目立った。しかし、検証授業Ⅱでは、短い対話の時間ではあるが、この表現が一度しか用いられていない。逆に、“OK, first time.”や“Try again.”を使って相手の発話を促している。また、“I have a question.”を用いて質問し、円滑にコミュニケーションが図れていることが分かる。

【資料⑱ 検証授業Ⅰと検証授業Ⅱのタスク活動における生徒の発話分析】

比較項目	検証授業Ⅰ	検証授業Ⅱ	考察
英文の量 (生徒A) * 一文の最大使 用語彙数	10 語	15 語	○ 検証授業Ⅰの方が全体的に 単語のみや短文での発話が多 い。
英文の質 (生徒B) * 表現した英文 に用いられたつ なぎ言葉や既習 の表現	○ Pardon? ○ Next,... ○ For example,	○ I would like to~. ○ Because ~. ○ OK. First time! ○ Try again. ○ I have a question.	○ 検証授業Ⅰでは、単語のみ の応答や“Pardon?”を用いた 聞き返しが多く、対話があま りスムーズに進んでいない。 ○ 検証授業Ⅱのタスク活動で は、検証授業Ⅰに比べて伝え る内容は少ないが、様々な表 現を用いて言葉でしっかり伝 えようとしている。

検証授業Ⅱの後に実施した授業アンケートでは、「ペアやグループで英語のみで対話ができ楽しかった」や「グループの中でコミュニケーションを図っていくことの大切さや面白さ、難しさを学ぶことができた」という感想が書かれていた。これらのことから、生徒は、本研究の仮説であるコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを学ぶとともに、「話すこと」におけるコミュニケーション能力を高めることができたと考える。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 成果

- 小・中・高の接続を踏まえた指導内容や指導方法を工夫することにより、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度が高まり積極的に言語活動に取り組めるようになった。
- つなぎ言葉や相づち、聞き返し、言葉の言い換えなどを用いることによってコミュニケーションを持続させることができるようになった。
- タスク活動を取り入れた指導過程の工夫を行い、自分の思いや考えを伝え合う言語活動を設定したことにより、生徒の「話すこと」におけるコミュニケーション能力を高めることができた。
- ICT 機器などの教材教具を活用することにより、生徒は自分の言語活動の様子を客観的に振り返ることができ、コミュニケーションにおける発話内容や態度面において質の向上につながった。

2 課題

- 本研究では「話すこと」「書くこと」の領域におけるコミュニケーション能力の育成について、研究を進めたいと考えた。しかし、「書くこと」のコミュニケーション能力において、「読み手の気持ちを意識して、分かりやすくまとまりのある文章を書くこと」について十分に研究を進めることができなかった。次年度は、「書くこと」におけるコミュニケーション能力の育成を継続して研究していく必要がある。

- 本研究では、小・中・高の接続を踏まえた指導内容や指導方法の工夫を行ったが、今後は指導体制など接続の在り方について究明していく必要がある。

〈引用文献・参考文献〉

文部科学省	(平成 20 年 3 月)	「中学校学習指導要領」
文部科学省	(平成 20 年 9 月)	「中学校学習指導要領解説 外国語編」
文部科学省	(平成 20 年 8 月)	「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」
文部科学省	(平成 21 年 12 月)	「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」
文部科学省	(平成 22 年 10 月)	「教育の情報化に関する手引き」
文部科学省		「英語ノート 1」「英語ノート 2」
宮崎県教育委員会	(平成 21 年 1 月)	「新学習指導要領ガイドブック」
高島英幸編著	(平成 16 年 4 月)	「英語のタスク活動と文法指導」 大修館書店
高島英幸編著	(平成 17 年 6 月)	「英語のタスク活動とタスク」 大修館書店
大塚謙二著	(平成 22 年 3 月)	「教師のための ICT 簡単面白活用術 55」 明治図書
ジェーン・ウィリス著		「タスクが開く新しい英語教育」 開隆堂

〈研究実践学校〉 宮崎市立宮崎中学校